

6月7日(日曜日)「礼拝で祝福される人」

【新改訳 2017】

詩篇 24・1－10

「手がきよく、心がきよらかな者、そのたましいをむなしいことに向けず、欺き誓わなかった人。その人はおう主から祝福を受け、その救いの神から義を受ける。これこそ、神の求める者の一族、……ヤコブである。」(4－6節)

この詩篇は、神殿に入って礼拝しようとした時に用いられた式文や交唱賛美の一つだったと思われます。

聖なる神の臨在される所に近づき、全き聖なるお方を礼拝することは、なんと畏れ多いことでしょう。自他ともに吟味せざるを得ません。礼拝で祝福される人はどんな人でしょうか。①手(行い)も心もきよい人です。「きよい」とは、よく言われるように、原語では「分離」を意味し、「ひたすら聖なる神との正しい関係に入れられていること」です。②むなしいことにたましいを向けない人です。偽って誓わない人です。「ヤコブ」とは、神の選民、信仰者の総称です。

だれが該当するでしょうか。今は、イエス・キリストにあって正直な心で礼拝をささげる人すべてです。主にあって聖徒としていただいて

いるからです！

～祈り～

主よ。どうか心も行いもきよい者となり、むなしいことにたましいを向けず、偽ることのない者とならせてください。そして、あなたの祝福にあずからせてください。

【学びのために】

王であられる主を迎える賛美の詩。(参考区分) 1-2 節 創造者なる神、3-6 節 神殿への入場の式文、7-10 節 入場内での交唱賛美。

礼拝での祝福体験は、実は、日常生活のあり方にかかっていることがわかります。